

【満5～11歳の接種対象者と保護者の方へ】

新型コロナウイルスワクチン接種の考え方

1. はじめに

この資料は、5～11歳の方の新型コロナウイルス感染症(以下 COVID-19)と新型コロナウイルスワクチン(以下ワクチン)接種の考え方について、鶴岡小児科医会がまとめたものです。

5～11歳の健康な子どもへのワクチン接種は、12歳以上の健康な子どもへのワクチン接種と同様に意義があると考えられます。健康な子どもへのワクチン接種には、メリット(発症予防等)とデメリット(副反応等)を本人と養育者が十分理解し、不明な点や心配な点があれば、接種の予約をする前にかかりつけ医に相談をして、接種を受けるかどうかの判断をしてください。

接種を受けるか迷っている方だけでなく、接種を希望している方も必ずこの資料をお読みいただくようお願いいたします。

2. 考え方

①まず周囲の大人がワクチンを接種しましょう

子どもたちの多くは家族から感染します。

ワクチン未接種の子どもを守るためには、周囲の大人へのワクチン接種(2回接種済の方の3回目追加接種ならび未接種の方の1・2回目接種)が重要です。

②基礎疾患を持つ子どもへの接種は、主治医と相談してください

重症化リスクの高い基礎疾患*を持つワクチン未接種の5～11歳の子どもは、ワクチン接種により COVID-19 の重症化を防ぐことが期待されます。

基礎疾患*を持つ子どもへのワクチン接種については、本人の健康状況をよく把握している主治医と養育者の間で、接種後の体調管理等を事前に相談してください。

※基礎疾患:神経疾患、脳性麻痺、慢性肺疾患、慢性心疾患、ダウン症をはじめとした染色体異常症、悪性腫瘍や移植などによる免疫不全状態、高度肥満などをさす

③5～11歳の健康な子どもへのワクチン接種はどう考えたらよいか？

健康な子どもへのワクチン接種には、メリット(発症予防等)とデメリット(副反応等)を養育者が十分に理解することが重要です。

子ども本人の理解度に合わせて可能な限りわかりやすく説明して、接種を受けるかどうか子ども自身が考え、意思を伝えることができる環境を整えてあげることが大切です。

3. 接種に迷ったら

メリットとデメリットを比べてみましょう

【メリット】 発症予防など※

- ① 感染しても発症を防げる可能性が高いこと
- ② 発症しても重症化を防げること
- ③ 接種することにより家族や友人へ感染させることを防ぐこと

※国内で 5～11 歳を対象とする接種に承認された小児用ファイザー社製ワクチンは、海外では 5～11 歳の小児に対する同ワクチンの発症予防効果が 90%以上と報告されています。

しかし新しい変異ウイルス(オミクロン株など)への有効性を示すデータは十分得られていません。

そのため、不織布マスクを着用する・しっかり手洗いをして、アルコール消毒も指先や指の間に十分行き渡らせる・換気を行うなどの感染対策は今後も必要です。

【デメリット】 副反応など※

- ① 接種後に、接種部位の痛み・発熱・だるさ・頭痛などの症状を認める可能性が高いこと
- ② 接種後に、まれにアナフィラキシー(強いアレルギー反応)を起こすことがあること
(米国の成人では、0.00047%の頻度)
- ③ 接種後に、まれに軽症の心筋炎を起こすことがあること
(米国の 5～11 歳では 0.00013%の頻度)

※米国の小児用ファイザー社製ワクチン接種後の健康状況調査では、2 回接種後の副反応は、接種部位の痛みなどの局所反応が 57.5%、発熱・だるさ・頭痛などの全身反応が 40.9%に認められ、発熱は 1 回目接種後 7.9%、2 回目接種後 13.9%に認められたと報告されています。

4. すでに感染した方へのワクチン接種

既に COVID-19 に感染してしまった小児でも、ワクチン未接種の場合、ワクチンを接種することができます。一度感染しても、再度感染する可能性があることや、自然に感染するよりもワクチン接種の方が COVID-19 に対する抵抗力が高くなることが報告されているからです。

一度感染された方で接種を希望される場合は、接種を受ける時期や副反応についてかかりつけ医の説明を受けてからご判断ください。

5. 他のワクチンとの間隔に注意

ワクチンは 3 週間の間隔を開けて 2 回接種を行います。定期予防接種など他のワクチンを受けた場合は 2 週間以上の間隔を開ける必要があります。6 歳になる学年で麻しん風しん混合 2 期が未接種の方や、まもなく 7 歳 6 か月になる方が日本脳炎 1 期を終えていない場合は、接種の予約をする前に接種時期をかかりつけ医と相談してください。

【出典】

①公益社団法人 日本小児科学会

「5～11 歳小児への新型コロナワクチン接種に対する考え方」(2022 年 1 月 19 日)

②公益社団法人 日本小児科医会

「5～11 歳の新型コロナワクチン接種にあたって」(2022 年 1 月 19 日)

①



②

